

## 自分の選択に自信をもつこと。

土方文子（株式会社 新薬開発研究所 中央研究所）

### 仕事の内容とやりがい

新しい薬が世に出る前に薬の効果や安全性の確認などを、動物を使って評価する仕事をしています。創薬の段階とは違い少し地味な印象があるかもしれませんが、高い効果を持ち副作用が少ない、いわゆる良い薬を作るためには必ず行わなければならない過程です。薬の評価をするにあたって、その特性を理解し、より適した動物モデルを選択するには経験や知識を必要とするため、私もまだまだ勉強中です。市販される薬に自分の仕事が関わっていると思うと、やりがいを感じます。

### 進路決定のきっかけ

高校生の頃は生物、特に遺伝子の授業が好きで、人間も含めた生物はそういった細かな仕組みの集合体だと考えるとワクワクしました。そのため、漠然と理系の道に進みたいと考えていました。大学3年で研究室に配属されてから研究のおもしろさを知り、そのまま修士まで進みました。平日休日、昼夜問わず学生の誰かが実験を行っているのが当たり前の環境にいて、また自分の成果を学会で発表できるのもとてもやりがいを感じていました。現在は企業に勤めているため、学生の頃とは違い効率的な実験スケジュールが求められます。そのため仕事と生活のメリハリがついて充実していますが、あの頃の実験生活を思い出すととても懐かしくなります。

### 仕事と生活のバランス

昨年結婚した夫は現在大学で研究員をしています。実験や論文執筆で帰りが終電間際になることも多々あり、家事のほとんどは私がしています。結婚するまで実家暮らしだった私にとって仕事と家事の両立は大変ですが、手抜き家事に寛容な夫のおかげでなんとかやっています。帰宅時間が遅い夫とは平日は顔を合わせる時間が短くなってしまうので、休みの日は二人家でのんびり過ごしたり、映画を見に行ったりしてリフレッシュしています。

### 進路選択に対してのメッセージ

高校生の頃は理系への憧れはあるものの、どの学部に進もうか迷っている学生の1人でした。その時点で将来を決めるのが難しかったからこそ、入学後の進路が多岐に渡るであろう農学部を選びました。実際に細胞や遺伝子の研究、土や木、自然を扱う研究、また私が進んだネズミを使った腸内の研究など様々な分野があり、驚いたと同時に自分の選択は正しかったと思いました。将来の事を学生の時から決められる人はそう多くないと思います。「好き」という気持ちや直感を信じて、また迷った時は進んだ後の選択枝が広い方向を選ぶのもひとつの手だと思います。どういった選択をしても人生に対していつでもポジティブであれば、道はきっと開くと思います。

#### <土方文子（ひじかたあやこ）プロフィール>

- 2000年 札幌南高校卒業
- 2005年 北海道大学農学部卒業
- 2007年 北海道大学大学院農学研究院修了
- 2008年 北海道大学薬学部勤務
- 2009年 株式会社新薬開発研究所勤務（現職）
- 2011年 結婚